



天才アート KYOTO® 天才アートとは、障碍のある人やひきこもり者などの多くがもっている優れた感性と表現力、そこから湧き出る独創的なアート作品に対して、NPO 法人 障碍者芸術推進研究機構（天才アート KYOTO）が独自にネーミングしたものです。当機構は天才アートを推進し、その啓発・普及活動を積極的に行ってています。



発行日 2025年12月25日 (木)

発行者 特定非営利活動法人
障碍者芸術推進研究機構

天才アート KYOTO

発行所 〒603-8226

京都市北区紫野西舟岡町2番地

ふれあい共生館「きたアトリエ」

info@tensai-art.kyoto

http://tensai-art.kyoto

編集協力 株式会社 三六六

天才アート

検索



平野 孝吉 Takayoshi Hirano 『東京スカイツリーと電車その他』集合写真 アクリル絵の具・紙粘土、2016-2020年制作



昨年開催の第12回天才アート展2024の会場

堀川御池ギャラリーにて
第13回天才アート展2025
を開催

予告

『天才アート展』は、2012年にスターとして、今年で13回目。さまざまな個性があり、優れた感性と表現力、そこから湧き出る独創的な世界観を、より多くの方々に出会い識つてもらう機会として、多くの方に高見いただきいただきました。

また、アーティストにとって1年の集大成ともいえる『天才アート展』は、登録アーティスト全員の最新作を一堂に展示する貴重な作品展。人びとの生活の中に広くアートが定着し、素敵なインフラとなりつつある今日、登録作家40余名の力作が皆さまをお迎えします。

新年早々から、新たな作品の数々が皆さまの「来場を心からお待ちしています。

会期 2026年1月22日(木)～2月3日(火)
時間 11時～18時／期間中、1月26日(日)・
2月2日(月) 休館
会場 堀川御池ギャラリー2階ギャラリー
B・C (京都市中京区油小路通御池
押油小路町238-1)

入場無料

※会期中、1月25日(日)14時から当機構理事・伊東宣明(Artist / Ph.D.)によるギャラリートークを開催します。

先着15名(事前申込不要)
主催 NPO法人障害者芸術推進研究機構
共催 京都市・京都市教育委員会
特別協賛 (株)SCOREENホールディングス
助成 一般財団法人NPO法人財団

市役所本庁舎地下連絡通路に展示

昨年に引き続き、京都市役所本庁舎地下連絡通路内の展示スペース約32メートル内に当機関の紹介などの展示を行います。

障害のある人の創造的制作活動を支援してきた当機関として、四条通り地下道で開催中の『公共空間にアートの彩り!』展と関係づけて展示します。さまざまな人々のつながりを大事に、当機関の今までの取り組みと天才アート展2025を紹介します。

会期 2026年1月5日(月)～1月30日(木)



ポスターを見ながら通行される歩行者

公共空間にアートの彩り!展
第9回開催中

「公共空間にアートの彩り!展」は、暗く殺風景になりがちな地下道などの公共空間に、当機関作品データで作成したB1サイズのポスターを展示し、「アートの彩り」で明るく和みのある空間を創り出す京都市などとの連携による取り組みです。展示作業中には、高齢の女性から「毎

会場 御池通り地下、京都市役所本庁舎地下連絡通路(約32m)
主催 NPO法人障害者芸術推進研究機構
協力 京都市行政局総務部庁舎管理課
会期 '25年11月15日(土)～'26年1月16日(金)
会場 四条通地下道(下京区麿屋町通付近
～富小路通付近の間)
主催 NPO法人障害者芸術推進研究機構
協力 京都市歩くまち京都推進室
助成 (公財)京都オムロン地域協力基金
会場 御池通り地下、京都市役所本庁舎地下連絡通路(約32m)
主催 NPO法人障害者芸術推進研究機構
協力 京都市歩くまち京都推進室
助成 (公財)京都オムロン地域協力基金

アウトサイダー・アート展
“Strike Gold” Art for
表現者たち 参加

一般社団法人 Arts and Creative Mind とGYREが共催する同展に初めて参加しました。同展は、アウトサイダー・アートの視点から、作為を持たない表現の本質に注目。タイトル「Strike Gold」には、未知の表現を前に新たな視点を得る、あるいは心躍る体験を共有するという意味が込められています。サブタイトル「No Concept」は、「21年より提唱され、既存の枠に収まらない多様な表現を象徴しています。

当機関からは、いしいこうた、大場多知子、水玉みりのアーティスト3人の作品を出展しています。

共催 (一社) Arts and Creative Mind + GYRE
会期 2026年1月25日(土)～
会場 GYRE GALLERY (東京都渋谷区神
田南5-10-1 GYRE 3F)

年楽しみにしています」という励ましの言葉をいただきました。多くの方に楽しんでいただけるとうれしく思います。

展覧会
報告

世人研発ふらわとプロジェクトとひと 障碍者アートと人権 一人ひとりに個性がある・世界があるーに初参画ー

これまでにもセンター通信「GLOBE」の表紙を天才アートの作品が毎号飾つてきたり縁も深い世界人権問題研究センター（世人研）が、若い人も集う「府民市民の皆さまと連携・交流できる拠点」となるよう本年度より開始した事業「世人研発ふらつとプロジェクト」：

その第5回とタイアップして、10月24日（金）～11月6日（木）までの2週間、27作品のポスター・パネル展覧にくわえ、大阪関西万博で披露した天才アートのプロモーションビデオとパネル群も再披露。さらにセンター通信のバックナンバー表紙も一挙公開する：展覧会が実現できました。



ポスター・パネル展覧風景



「GLOBE」バックナンバー

解説する雨宮 章副理事長

大学の「学園祭」の今回コアとなる3日間の11月2日（日）には、雨宮副理事長により「天才アート・No ART No LIFE」をテーマに講演、1日（土）と3日（祝）には対話型鑑賞法による作品解説も実施。

これまでのシニア層にくわえ、芸術を学ぶ学生の皆さんにも作家さんたちとの出会いの場にもなったのかと。

さまざまな障害がありながらも、その優れた感性と表現力、そこから湧き出る独創的で多様なアートとの「対話」の機会になつた：などうれしいメッセージも数多くいただきました。

ソーシャルインクルージョン（社会的包摶）への道のり：これからもできるコトひとつひとつです。

「GRID KYOTO」を紹介アート展へ協力 —共生アート KYOTO x art space co-jin

西松建設グループの西松地所（株）が運営するタッセルホテル三條白川（京都市東山区）が、館内の1階ラウンジにて開催された「こころを紡ぐ—共生するアート展」に出演協力しました。

期間の前半を天才アート KYOTO セレクション、後半をアートスペースコーディンセレクションの展示をされました。



タッセルホテル三條白川1階ラウンジスペースの展示

会場：タッセルホテル三條白川1階ラウンジスペース
会期：11月28日（金）～12月21日（日）
主催：タッセルホテル三條白川
共催：天才アート KYOTO / アートスペー
スコージン



天才アート KYOTOはゼスト御池のスペースに出展

GRID KYOTO ～京都まちの文化祭～に出演

京都市では、互いにつながり、支え合い、生きがいを持つて活躍できるウェルビーリングなまちの実現に向けて「地域コミュニティHub」を設置し取り組んでいます。

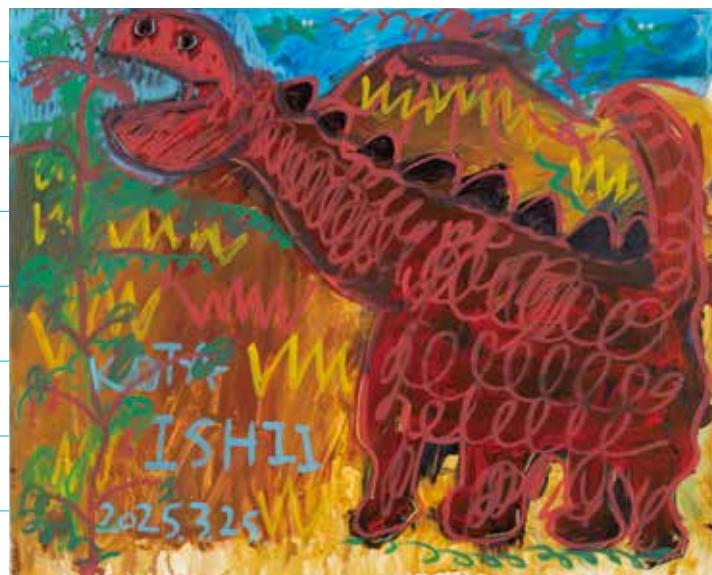
その活動の一環として、まちづくりをはじめさまざまな活動に取り組むプレイヤーや市民が交流し、つながる起點となる祭典「GRID KYOTO ～京都まちの文化祭～」が開催され、当機構も出展しました。

当日は晴天に恵まれ、庁舎前広場で繰り広げられた数々のパフォーマンスに多くの市民の方々が歓声をあげておられました。

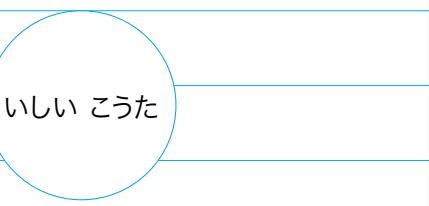
日時：'25年11月15日（土）11時～16時
場所：京都市役所 庁舎前広場およびゼスト御池地下街（天才アート KYOTO はゼスト御池地下街に展示）



『子供をのせるぞうさん』 キャンバス・アクリル絵の具、530×660mm、2023年制作

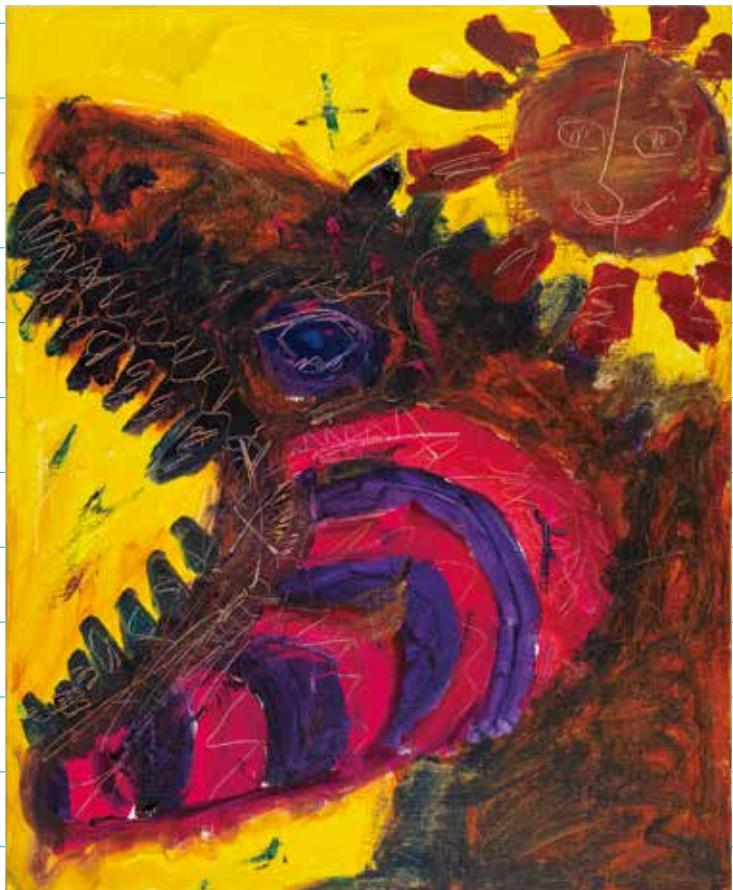


『少年が描いたような恐竜の絵』 キャンバス・アクリル絵の具・ポスターカラーマーカー、652×803mm、2025年制作

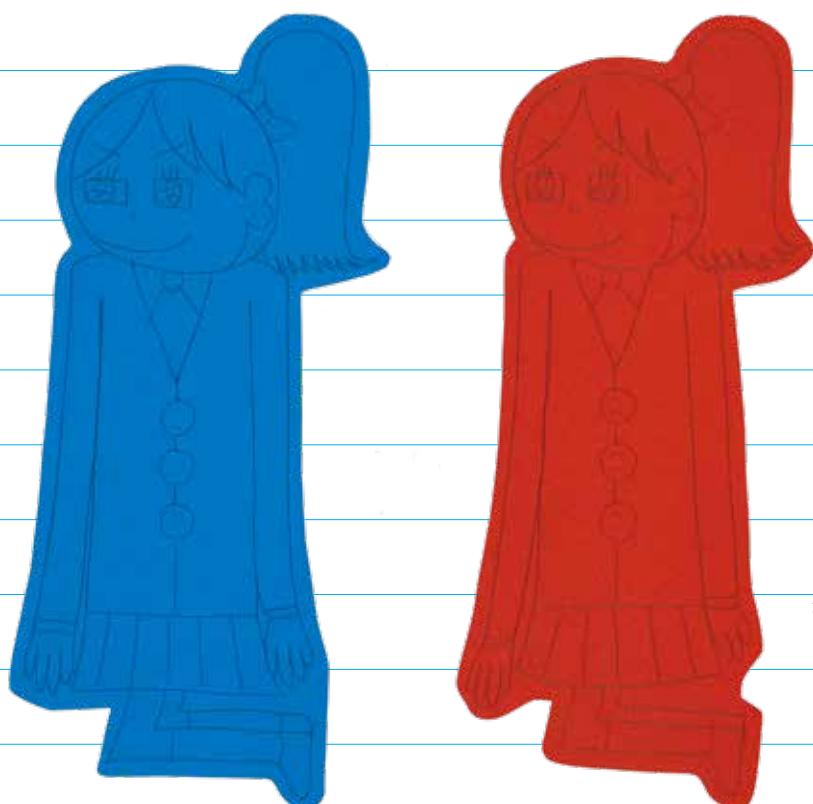


TENSAI
ART
NOTE

天才
アート
ノート



『きょうりゅううだぞー』 キャンバス・アクリル絵の具、655×530mm、2023年制作



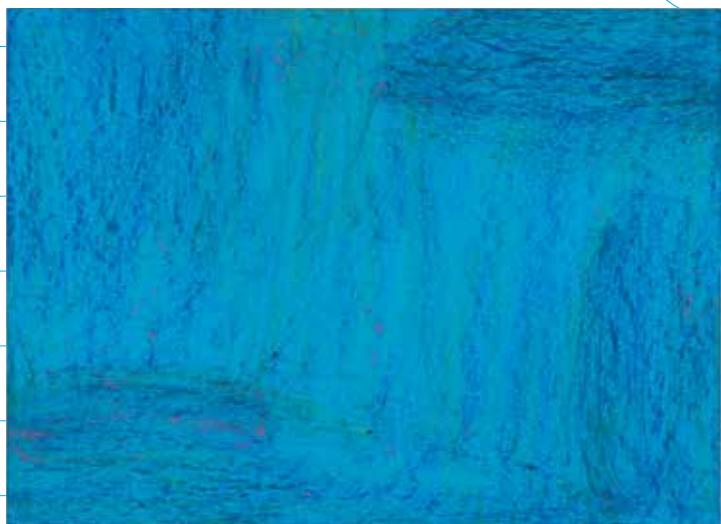
全て『無題』 紙・ペン、245×340mm、130×149mm、2021年～

いしい こうた Kota Ishii 1995年生

いしいの作品は、その多くが「人の感情や意識」、「動物」をモチーフとして制作されており、近代絵画や漫画表現などからの影響も貢献を受け入れ、混沌とした世界を描き出します。アクリル絵の具やクレパス、鉛筆などを用いて、一度制作に取りかかると止まることない雄牛のような勢いでパワフルに描きます。出来上がった絵を前にすると観る者にはその迫力が伝わってきます。

川嶋 誉大

『無題』 色画用紙・クレパス、393×542mm、2024年制作



『無題』 色画用紙・クレパス、393×542mm、2024年制作



『無題』 色画用紙・クレパス、393×542mm、2025年制作



『無題』 色画用紙・クレパス、393×542mm、2025年制作

川嶋 誉大 Yoshihiro Kawashima 1996年生

川嶋はクレパスを寝かせて手を持ち、色画用紙に擦りつけることで、オール・オーヴァーな画面ともいえる作品を必ず紙の表裏両面に描きます。彼はクレパスを「擦りつける」という行為そのものを楽しんでいるのです。そこに生まれるのは奥行きや何かを描いた形もなく、色彩と痕跡があるのみです。彼が描く時はダイナミックに身体を全部使い、時にリズムをとりながら描いていきます。無心に楽しみながらも激しい動きから生まれた静謐な画面は、観る人によって多様な印象を抱かせます。

本 ちはる

本 ちはる Chiharu Moto 2003年生

アーティストには、「同じモチーフやタッチを継続して深める作家」のタイプと「作風を変え続ける作家」のタイプがいます。本は後者あたり、彼女の興味によって一年単位で作風が変わり続けます。一見、違う作家の作品と思えるほど作風が変化しますが、一貫して日常生活の中での「反復」「漫画やキャラクター」「話し言葉」「食事と排泄」などがテーマとして出てきます。現在、まだ若い彼女の作品は断続的な作風に見えるかもしれません。しかしながら表面的には作風を変えながらも一貫したテーマで蓄積されていく作品群は、星が連なり星座となるように、いずれその全貌を表すでしょう。



ご家族さま
より寄稿

アーティストの生き方を求めて

大場 文子

● 小さい時から絵の才能を發揮

私が37才、夫が42才の時に産まれた子が多知子です。結婚して14年目に、数年に渡る不妊治療と流産を繰り返し、ようやく授かった娘でした。出産時、娘は2500グラムの小ささでも、ガーゼに染み込ませたぶどう糖の初乳をよく吸い、生きる力の強さを実感してうれしく思つたのを覚えていきます。

2歳頃、初めて形になる絵を描き、その魚の絵はしばらくベビーたんすに貼つていきました。また同じ頃、自分でおむつの替えを持ってきて私に「替えてください」と言ふような子でした。幼少期は夫がよく絵本を読んで聞かせ、小学校に上がる頃には進んで本を読む読書好きになつていきました。外遊びも好きで、クリスマスにねだつて買つてもらつたプラスチック製の日本刀を私の着物の腰ヒモで腰に付け、近所の竹



2～3歳の頃



小学3年の頃、市の美術展

林で拾つた枝に夫のパンツのゴムを付けて弓矢を作り、それを肩に掛けて龍安寺の庭や裏山を駆けめぐり回つていました。その際、自然の中で動植物を観察採取し、観察眼や生き物に親しみを持つ気持ちを養つたのではないかと思います。

幼稚園の頃から小・中学校卒業まで、市や府への絵画展やコンクールには毎年入選し、評価して頂けることが多かったです。私も絵を描くのが好きで、一緒に横で同じモチーフを描いたり、帰省した時に田舎の風景や畑の作物なども、よく2人で描いたりしていました。しかし、私のその姿勢が親に絵を描いてもらつて賞を獲つているという誤解や陰口につながつてしまつたようです。娘は誤解されることが多い子でした。

小学校で始めた部活は中学でも続けましたが、意地悪をされ、笑い者にされたり、プレーするたびヤジや冷やかしを言われ、ひどく緊張するようになりました。好きなだけ勉強もスポーツもトラウマ化させられました。学校に行き渋るようになり、遅刻すると担任から体罰を受けてきました。悪いこと、恥ずかしいことを全部娘に押し付けて、悪者として攻撃し、傷付けても良い人間とされていました。

高校に上がつても同様で、前述の同級生の子も同じクラスになり、その子の巧みな情報、印象操作でずっと娘や私もおとしめられ続けました。思つたこともないのに、女優になりたがつて、芸能界に憧れるぜずみんなが喜々として広め、バカにしていました。

テストの答案を教師に破られたり、授業で間違えるまで当て続けられ、間違えると立たされたりしたそうです。隣のクラス

● 中学から始まつたイジメ

中学の頃は、同級生に振り回されるのを嫌い、距離を取るとイジメの首謀者として攻撃されたり、同じ部活の子と一緒に登下校している内、その子が小学校からテストの不正や商品を無断で持ち出すなど、悪いことをしているのを知り、他言すると、その子に逆に娘が当事者だと歪曲して広められ、教師から不当扱いを受けました。

テストの答案を教師に破られたり、授業で間違えるまで当て続けられ、間違えると立たされたりしたそうです。隣のクラス

● 父親の介護と統合失調症の発症

夫のお酒やお金の問題に気付いてはいたけど、どうしようもなくなるまで隠され、触れさせてもらえなかつた。夫が晩年「ワシはなんでこんな人間になつてしまつたんだろう」と後悔を吐露したことがあり、この人は人間としてダメだと諦めました。

娘は卒業と同時にひきこもりになつてしまつました。さらに、その頃、夫のアルコール依存症と多重債務が明らかになりました。言い争いや喧嘩が絶えない家庭環境に耐えかねた娘が、夫を病院へ連れて行き、娘もそこでカウンセリングを受けることになりました。

幼少期はあんなに明朗快活だった娘が、ひどく緊張して人の中に入れず、話すこと

コケにされていました。娘は高校から絵を描かなくなりました。私は這つてでも学校に通い続けて卒業するよう言いました。

当時、娘はこうした自分の体験を話して

もままならない状態になつていました。それなのに、夫の借金の後給末やアルコール依存症治療の介護をさせてしまつていました。私は体が不調で動けなかつたのです。

そして、娘が28歳の時、統合失調症を発症しました。幸い通院中だつたため、投薬治療も迅速で、大きく人格は崩れませんでした。それに、カウンセリングの工藤先生に診ていただけたことが大きかったです。親がうまく言えないと娘に上手に言って下さり、同意見や共感を感じ、安心していられました。娘も家で本ばかり読んでいたのが、大学の講演やシンポジウム、美術館へ行くようになり、再び少しずつ絵も描き始めました。次第に家でも好きなことの話しをするようになり、心理学の大家、河合隼雄先生を隼雄ちゃん。メラニー・クラインをクラインおばさん。町内を歩いている野良猫をニヤンコ先生!と駆け寄つて話しかけ、私には誰が先生で誰がお友達か戸惑うばかりではありました。

●天才アートでアーティストに

11年前、娘が37歳の時に、夫が亡くなりました。借金やアルコールの心配をもうしなくていいと、心底ほつとしました。これから希望を持てる人生が始まると、ようやく生きた心地がしました。娘にもそれが通じたのか、彼女は天才アートに入る道を選びました。

天才アートに通うようになって、始めは四つ切りの画用紙一枚に1ヶ月近く掛つて鬼灯の絵を描くのが精一杯でした。それ



小学6年生の頃、龍安寺で写生

書ではなく、生き方の姿勢ではないかと思いましたが、アーティストとは社会的肩に昇華することが生活の軸になつたらしいです。芸術のためと言い、食べたいお菓子を食べ、視たいテレビを視、読みたい本を読み、遊び歩いて、したいことをするだけのようにも思えますが、娘が生きることを楽しめるようになつてきたのが私はうれしいです。娘の作品は、いつも私の予想を少しが上回ります。それが楽しみで、ずっと見続けていきたいと願っています。

新婚時代、私は夫にピアノを習つていませんでしたがなかなか上達せず、ひとりで練習し続け、70才前の頃に「エリーゼのために」が弾けるようになると、夫に「弾けるようになったのか」と言われたのが今でも心に強く残っています。同じように、大きなキヤンバスに向かつて好きな絵を描いている今の娘を見たら、きっと夫は「描けるようになつたのか」と笑つて言うでしょう。



20歳の頃、飼い犬と

れ、趣味で描く気だった娘は度肝を抜かれたと言つっていました。私なんかがアーティストになれるんだろうか…と言つたりもしていましたが、アーティストとは社会的肩に昇華することが生活の軸になつたらしいです。芸術のためと言い、食べたいお菓子を食べ、視たいテレビを視、読みたい本を読み、遊び歩いて、したいことをするだけのようにも思えますが、娘が生きることを楽しめるようになつてきたのが私はうれしいです。娘の作品は、いつも私の予想を少しが上回ります。それが楽しみで、ずっと見続けていきたいと願っています。

革新の分岐点
muratec
これまでの技術でつくるか、
これからの技術をつくるか。

村田機械株式会社

本社/京都市伏見区竹田向代町136
<https://www.muratec.jp>

▶ロジスティクスシステム
▶繊維機械

▶ファクトリーオートメーション
▶工作機械

▶半導体工場FAシステム
▶シートメタル加工機
▶デジタル複合機/情報機器
▶生産管理システム

京都市長応接室に作品を展示していただきました

10月16日（木）、京都市長応接室に当機

構登録アーティスト、水玉みりさんの作品『よど（2）+』を飾つていただきました。

鮮やかな色・シンプルなデザインで、元気が出るように作成された本作品に対し、松井市長は「私もこの作品を見るたびに、元気をいただこうと思います」とのコメントをいただきました。

まことにありがとうございます。これからも皆さまのご期待に応えられるよう、アーティストの支援にまい進していきます。



松井京都市長と水玉みりさんの作品

広がる「京都ふおんと」の活用事例

2024年度より天才アートKYOTO

登録アーティストの作品を採用いただきました「京都ふおんと」プロジェクトは、さまざまな場面で続々と活用されています。

毎年、天才アート展は秋の観光シーズンの時期に開催していましたが、今年度は1月～2月に変更しました。これは比較的行事が少ない時期に開催した方が、関係者も含め来場者が多いのではないかとの判断からです。寒い時期ですから実際はどうなのか、ふたを開けてみないとわかりませんが、多くの皆さんに来場いただけることを期待しています。

天才アート展まで残り1ヶ月。アーティストの皆さんには素晴らしい作品を完成させ、来場者の方々に披露していただけることを願っています。そして、インフルエンザや「口ナへの感染に気をつけてください。

（編集後記）

毎年、京都ふおんとを用いたトートバッグがグッズとして販売されました。多くの方にお買い求めいただき完売となりました。また、小さく畳めるエコバッグも作成されており、こちらは現在「ぶらり嵐山」にて購入可能です。嵐山へ行かれた際は、ぜひお店へお立ち寄りください。その他名刺デザインやパッケージなど、さまざまなお場面で活用されています。これからもどんどん広がっていく予定ですので、街中で見かけることも多くなるかもしれません。

今回は活用事例をいくつか紹介します。

11月、ワインを取り扱っているラック



トートバッグ（上）とエコバッグ（下）

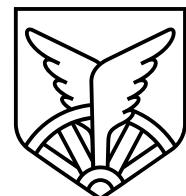


平野 孝吉 Takayoshi Hirano
『東京スカイツリーと電車その他』集合写真
アクリル絵の具・紙粘土、2016-2020年制作

【表紙の作品について】

平野は京都なら「五山の送り火」「京都タワー」「清水寺」、東京なら「東京スカイツリー」といった観光名所に加え、さまざまな新幹線や車、時にはお菓子やお寿司など、自身が興味を持つ対象を、彩色をした粘土や木彫りを組み合わせたり、ドローイングを用いたりして、しばしば「アイコン」として作品を作ります。さまざまな制作物を並べると、さながら都市が形成されているかのよう見えます。

HAGURUMA



一級建築士事務所
町家・古民家再生 / マンション改修
(株)共立ホームエンジニアリング
06 (6788) 5402 kap@hyper.ocn.ne.jp

お客様に寄り添い、安心と安全をお届けします
総合リスクコンサルタント
株式会社プラン
075-353-2522

妙心寺 塔頭
養徳院
永代供養のお寺 075-461-2898

京都上鳥羽の印刷会社
MORITA
(有)森田美術印刷
京都市南区上鳥羽火打形町12 ☎ 075-692-3131
いのちを見つめ、人間を支える。

RKW
洛和会
ヘルスケアシステム®

YOSHIMURA
吉村建設工業(株)
京都市中京区西ノ京小倉町135番地
075-802-1360

SCREEN

一般財団法人
NISSHA財団